

## テーマ 「児童が読書を好きになる図書館づくり」

かほく市立外日角小学校 教諭 新谷 真美

### 1 はじめに

かほく市の小中学校には学校司書が常勤している。本校では、学校の真ん中に図書館が配置されている。本の配架、掲示や展示、季節の掲示などを工夫し、本に親しみやすく、児童が「思わず行きたい」と思えるような環境づくりをめざして学校運営を行っている。

本校では、「まずは、本に親しむこと」に力を入れてきた。昨年度は、年間の読書目標を一人50冊と決めて、取り組んできた。昨年度は95%の児童が目標の50冊に達成することができた。今年度は、図書館に足を運ぶことの習慣化をねらいながらも、少しずつ「読書の質」にも力を入れていきたいと考え、以下の取組を行っている。

### 2 実践の概要

#### (1) 児童の読書意欲を引き出すための取組

##### ① 読書の旅

本校では、1年間を通して「読書の旅」という取組をしている。最初は、何もない鉢植えからスタートし10冊読むごとにフジバカマの花が1つずつ増えていく。50冊読むと、アサギマダラという蝶が飛んでくる。100冊、150冊、200冊…と読み進めるごとに自分のアサギマダラが各地へ旅をしていくという仕組みになっている。自分の到達度が視覚化され、50冊達成するごとにしおりやもう一冊貸し出し券がもらえるので、児童の意欲につながっている。



##### ② 全校の読書冊数の掲示

毎年、年度初めに全校で目指す貸出目標冊数を決めている。今年度は、全校の合計貸し出し

冊数目標を6万冊に設定している。今年度は、校長先生と教頭先生が植えた種が、千冊ごとに、花を咲かせていくというコンセプトの掲示になっている。5千冊達成するごとにおすすめの本を掲示している。

#### (2) 図書委員会のイベント

図書委員会では、学期に1回自分たちでアイデアを出し合いイベントを企画して取り組んでいる。「どんなイベントを企画すれば、図書館に足を運んでもらえるのか」ということを真剣に考え、子どもたちならではの目線から考えた面白いイベントが毎年実施されている。

#### (3) 様々な本と出会う場づくり

児童は、読み聞かせが大好きである。いつもは手に取らないジャンルの本でも、読み聞かせをすることで、「借りて読んでみようかな」と思う児童もいる。様々なジャンルの本との出会いを狙って以下のような取組を行っている。

- ・本校ボランティアサークル「スマイリーブック」による朝ステップの読み聞かせ(月1回)
- ・スマイリーブックによるお話会(月1回)
- ・やまんばさんによるお話会(月1回)
- ・学校司書による放送での読み聞かせ(週1回)
- ・うちどく(親子読書)の取組(月1回)
- ・学習場面での学校司書によるブックトーク(随時)
- ・調べ学習、国語の並行読書など学習で活用する本の準備(随時)

### 3 今後の課題

まずは図書館に足を運ぶことを習慣化してほしいという願いを込めて、以上のような取組を行っている。児童の「この本、読みたい」という願いを大切にしながら、読書の質が上がることを願って取組やイベントを今後も企画し行っていきたい。